令和３年度　第３回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

１　日時及び場所

令和３年１２月２２日（水）１０時００分～１１時３０分

四国森林管理局　３階会議室（ウェブ開催）

２　議事概要

【委員会の検討結果】

原木供給量については、事業体の生産活動が例年並みに回復しており、原木不足は概ね解消している。今後の見通しも原木の増産に向けての動きもあるなど、総じて増加傾向となっている。

一方、原木価格は、一時の高値のピークは過ぎ、ヒノキ３ｍ柱、中目材を中心に値を下げるなど落ち着きも見られるが、製品需要の動向次第では更なる下落の可能性もあるなど、先行きは不透明である。

こういった状況を踏まえ、現時点での国有林材の供給調整を行う必要はないが、今後も市況動向等を注視しつつ需給バランスを見極めていくことが重要である。

【主な意見等】

○ 素材生産業

・原木の生産活動は例年並みに回復し、今年度の原木生産量の見通しは令和2年度を少し超える程度と予測。増産には今後の価格変動が読めないため慎重な姿勢の事業体もある。

・一時期ほどの国産材に対する引き合いの程度は強くないが、合板に要する原木が不足しているという声も聞かれている。輸入材が増加に転じたとしても、高騰前の状態には戻らないのではないか。

・国有林の素材生産請負事業は予定通り出材が行われ、2月末を目途に終了する見通し。

○ 原木市場・共販所

・出材量は安定、3m材は多いが、4～6m材が不足気味。価格は高値安定で、スギ･ヒノキともに3mの柱、中目サイズの単価が良いが、ピーク時に比べるとスギB･C材、ヒノキ3m15～16㎝で値を下げている。原木価格は、下落傾向で落ち着いてくる見込みである。

・９～１１月の高知県森連全体の販売数量は、約９万５千５百㎥、昨年対比では約１万㎥の増加。年度末にかけては増加傾向になるのではないかと予想。価格では、高値維持傾向であったスギ、ヒノキ３ｍ材の部分的な出材過多により今後は値下がり傾向である。

・ヒノキの買い気は薄れてきている。価格では、スギは堅調で大きな変動はないが、ヒノキは出材が増え在庫も増えてきたことから下がってきている。木材以外の建築用品の不足等の影響で建築が進まないといった話もあり、消費が増えることはないと予想

しているが、条件が変われば増えるかもしれない。

・　全体的に数量は回復し、価格もヒノキは多少落ち着きつつある。先行きは、民有林は価格次第で動いてくると予想。

○ 製材工場等

・原木は安定的に確保できており、４～６ｍ材の確保が難しい。３ｍ材１２㎝角は、売れ行きが鈍って単価が下がっている。国産材の市況はピークを過ぎて、下降していく見込み。輸入材から国産材へのシフトは継続するため、コロナ以前よりは良い市況になるという意見もある。

・ヒノキ柱取り材は下がり気味だが、少し戻りつつある。ウッドショック頃ほどの高値はつかない状態。スギは相変わらず物不足である。建築は好調で出荷状況は良い。年明けにかけても現状のままだと考えている。しかしながら、木材以外の住宅資材についてコンテナの滞留等の物流の課題があり、この状態はしばらくの間続くとの予測もある。将来的には住宅資材等の高騰により個人の住宅意欲が薄れていくことが心配である。

・中四国のヒノキ出材が過熱気味に増加していて、製材可能量を超えている。これ以上原木在庫を増やせない状況であるが、今後の出材は降雪のリスクもあるので製材としては危機感は少ない。製品出荷はピークを越え注文は落ち着きつつある。１２月に入り受注残は激減、製品在庫は増えつつある。住宅着工数も順調でプレカットの稼働率も高く、まだ輸入材も高いので中期的には販売量の心配はしていないが、今のヒノキ相場は高いので調整局面にある。

・スギ３ｍの原木価格が少し下がり、４ｍの原木が少しずつ多くなってきた。合板の需要も順調で原木を求める声が強いが、今後、雪の影響で出材減少となることが心配。製品は春先のような荷動き、価格は難しくなってきた。今後は外材の価格と雪次第である。

〇国有林材の供給調整についての意見

・原木の増産に向けての動きが始まりつつあるので、国有林材の供給に特段の調整をする必要はないものと考える。

・原木不足の懸念は薄まって、現在は出荷調整の段階にあるが、国有林の供給調整は必要なほどではないと考える。